

事業名 放置柿の有効活用―獣害対策と もったいない食資源利用のために― (地域づくり活動NPO事業助成事業)

生かそう丹波の食グループ

1 事業が目指すところ

兵庫県の丹波地域(丹波市・丹波篠山市)には、放置柿が多くあってサルをはじめ野生動物を農地に呼び寄せる獣害原因になっています。柿はこの家にもあって入手しやすい安全安心で栄養価の高い果物で、地元丹波が誇る食資源なのに、やむなく不要な柿の木を切るなどの施策が取られています。

我々グループは、もったいない食資源の有効活用を研究したり、地産地消の製品を開発したりしてそれを人々に広めたい、それが獣害防止にも役立つなら願ってもない事と考える人達がボランティアとして集まり、計 12 名で提供を受けた富有柿を柿ジャムや柿羊羹に加工したり、講習会・試食会を開いたり、地産地消のお店で販売したりする活動に従事しています。



2 活動内容

具体的には提供を受けた富有柿を柿ジャムや柿羊羹に加工して一部を提供者に還元するとともに、余った分で試食販売会や柿ジャムづくり講習会を開催して柿ジャム製法や柿加工レシピを伝授して、市民の皆さん自身が放置柿の食資源化と獣害防止に協力してもらう活動をボランティアとして実践するとともに、柿ジャム・柿羊羹を丹波市内の地産地消のお店で販売してもらって食資源還元を行っています。

2024 年秋は柿の大不作の年でほぼ収穫 0 で柿加工は前年度に冷凍保存しておいた柿を使って柿ジャム試食販売会(1 回)、柿ジャムや柿羊かんづくり講習会(2 回)しか実施できませんでした。ただ、地元の氷上高校生が 2 回とも講習会に参加してくれました。一転、2025 年秋は柿の大豊作で 2025 年 10 月から 12 月にかけて柿の収穫(約 20 回)・柿の加工前処理後の冷凍(14 回)・ジャムや羊かん作り講習会(2 回)等など行いました。2026 年 1 月からは、柿ジャムや羊かん製造・講習会・試食会・販売会等を予定しています。

3 成果や課題

本年度は柿の大豊作で柿もぎに来てと言う連絡が膨大な数に上り我々だけの人手では柿の冷凍保存加工も出来かねる状況となり、丹波市柏原町の就労継続支援事業所きらめきワークさんをお願いして加工してもらう事になり、図らずしも前年度から懸案であった、障害者施設との協働と言う成果を達成した。

また、食品加工を学ぶ地元高校生が丹波の食材活用の課題研究テーマに柿ジャムを活用したお菓子作りに取り組むために我々とコラボしてくれることとなり、若い世代との協働と言う点で成果を上げた。

ただ、我々のボランティア活動は、裏年表年により柿の収穫量に大きな差があるという自然相手だけに成果を上げられる年と上げられない年の差を冷凍保存等で成果の平均化を図れるかが大きな課題です。

4 今後の展望と成果の活用

これまでの活動で丹波地域の人々に我々の活動が一定の認知を得て放置柿の提供や講習会参加者の増加等成果を上げてきていますが、更にその成果を定着させるためには、①我々の活動をより広く市民に周知して、我々とともにボランティア活動をしてくれる人材育成を図ること。②柿ジャム・柿チップス・柿羊羹等の柿の加工品開発を進めること。③次代を担う地元の高校生や障害者支援施設とのコラボを一層進めること。④自治体との協働などに尽力して行きたいと考えています。